

よりよいリスクコミュニケーション を目指して

2010.2.18 東京都庁 都民ホール
化学物質アドバイザー
岡部 正明



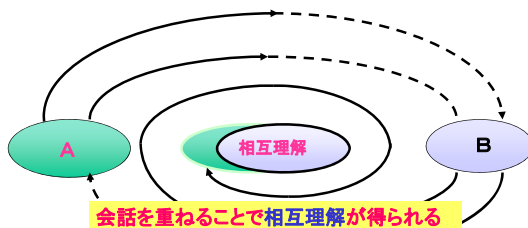
リスクコミュニケーションとは

市民、事業者、行政が化学物質に関する情報を共有し、意見交換を通じて意思疎通を図ること

平成19年PRTRデータを読み解くための市民ガイドブック
(環境省)より

2

コミュニケーションのモデル図



3

コミュニケーションの到達点

- **相互理解**
相手の主張を理解すること
(リスクコミュニケーションの到達点)
- **合意形成**
相手に納得してもらうこと
(企業の望む到達点)

4

リスク・コミュニケーションの ポイント

- リスク情報をどうすれば正確に理解してもらえるか？



5

情報のインパクト

- **先に接した情報**ほどインパクトをもつ
- “**暴かれた情報**”は、“**公表された情報**”よりもインパクトをもつ
- “**マイナス情報**”は、“**プラス情報**”よりも影響力が大きい
- **情報源**が説得力を左右する

6

化学物質に係わるリスク

- **個人の判断により回避できるリスク**
リスクとベネフィットの比較で自主的に判断し回避するか受容するか決定

成分情報の開示

- **個人の判断では回避できないリスク**
事業所などからの化学物質の排出など

未然防止

7

高く見積もるリスク

- 不平等なリスク
- 自分では回避できないリスク
- 身近な人に係わるリスク
- 子孫や広域にわたるリスク



8

リスク比較時の注意点

- 関係の無いリスクを比較してはいけない。

例)この化学物質によるリスクは、タバコで死亡するリスクより小さい。あなたはタバコを吸っているから、この程度のリスクは受け入れるべきだ。

➡ 強制的なリスクと自主的なリスク

9

適切なリスク比較

- **現在と過去のリスクの比較**
昨年と比較し、排出量は50%削減された。
- **ある基準値との比較**
この化学物質の排出濃度は排出基準の1/3程度である。

10

コミュニケーション中の注意事項

- 相手の理論が非科学的であっても、まず相手の意見を受け止める姿勢を示す。
- 相手の意見をよく聴く。
- 自分の主張を繰り返すのではなく、相手の意見に対して議論する。
- 質問には、できるだけ簡潔に答える。
- 事業者にとって都合の悪い情報も提供する。

11

理解を高める手法例

- できるだけ平易な言葉で説明する
- 化学物質のリスクは、ゼロにできないことを理解してもらう。
- 他の同じリスクとの比較で説明する。

12

理解を得るには

- **リスク評価ができる場合**
ある程度科学的に解明される場合は、住民への影響度を予測（但し、科学的な**安全**は、住民への**安心**とは一致しない）
- **リスク評価ができない場合**
早い段階での住民の参加による協議を行うことで、**透明性**を確保し、**信頼感**を得る

13

陥り易い思い込み(市民編)

- 化学物質は、危険なものと安全なものに二分される。
- 化学物質のリスクはゼロにできる。
- 大きなマスコミの情報は、信頼できる。
- 専門家は、いつも科学的に、客観的にリスクを判断している。

14

陥り易い思い込み(企業編)

- 一般市民は科学的なリスクを理解できない。
- 情報を出すと無用の不安を招く。
- 科学的に説明すれば、理解や合意が得られる。
- たくさんの情報を提供すれば理解が深まる。
- 情報提供や説明会、意見公募などがリスクコミュニケーションである。

15

円滑なコミュニケーションのために

- **ファシリテーター**(進行役)の採用
 - 会議を円滑に進めるためのルール作り
 - 議論を噛み合ったものに修正
- **インタープリター**(解釈者)の採用
 - 中立な立場で化学物質に関する事項の説明ができる人
 - 市民等の質問に答えられる人

環境省は人材育成制度を開始
化学物質アドバイザーの登録



16

化学物質アドバイザーとは

- 化学物質に関する専門知識や化学物質についての的確に説明する能力などを有する人材として、一定の審査を経て登録された者。
- 環境省事業を請け負い、(社)環境情報科学センターが認定。

化学物質アドバイザーのホームページ
<http://www.env.go.jp/chemi/communication/taiwa/index.html>

17

化学物質アドバイザーの役割①

- 講演会、勉強会の講師
 - 行政主催の「化学物質に関する市民向けシンポジウム」等
 - 行政主催の「事業者向けPRTR説明会」等
 - 企業の社内向け研修会
 - 市民グループの勉強会



18

化学物質アドバイザーの役割②

- リスクコミュニケーションの場の解説者
 - 企業と市民の意見交換、情報共有に基づく相互理解の場へ、
 - 解説者(インタープリター)として参加



19

これまでの派遣実績

派遣内容	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
インタープリターとして	1	2	14	13	8	11	5
勉強会や講演会等の講師として	51	40	39	37	35	31	28
パネラーとして	0	0	2	0	0	2	2
合計	51	42	55	50	43	44	34

20

引用文献

- 1)平成19年PRTRデータを読み解くための市民ガイドブック
(環境省)
- 2)化学物質アドバイザー講習テキスト・化学物質
アドバイザーの役目(市民向け解説法)
大蔵幸雄(社)環境情報科学センター
- 3)PRTR/MSDS説明会資料
(社)日本化学工業協会
日本レスポンシブル・ケア協議会
- 4)リスクコミュニケーション
(社)日本化学工業協会
日本レスポンシブル・ケア協議会
- 5)実践リスクコミュニケーション
大蔵幸雄(社)環境情報科学センター

21